

2010 年度後期 学科 教育改善委員会 議事録 (案)

1. 実施日時と場所

平成 23 年 4 月 22 日 (金) 9:30-11:45, 12:25-13:10 都市システム工学科 東棟 3F 会議室

2. 出席者

常勤教員：小柳武和, 沼尾達弥, 金 利昭, 小峯秀雄, 横木裕宗, 井上凉介, 山田 稔, 寺内美紀子, 桑原祐史, 原田隆郎, 信岡尚道, 村上 哲, 車谷麻緒 (全常勤教員 17 名のうちの 13 名が出席) (常勤教員のうちの欠席者：横山功一 (紙面参加), 三村信男 (紙面参加), 呉 智深 (紙面参加), 藤田昌史 (紙面参加))

非常勤教員：無し.

技術職員：伊佐治 進, 木村 亨, 金澤浩明

3. 後期学科各科目の点検と評価

[午前の部]

- ・ 少人数制がよかった。一人だけ感想文の域を脱しないので A であった (都市システム主題別ゼミナール B)。
 - ・ 地盤に係わる環境問題のテーマを受講者各自に設定してもらい調べてもらう。一人取り止めがいた。自習の時間をつくった。県立図書館に連れて行った (入学前に殆ど本を読んでいない受講生が居た)。物理と数学が関係していることを強調した (都市システム主題別ゼミナール C)。
 - ・ 英語で書かれた数学のテキストを分担して読ませて発表・質問させた。最後にレポートを課した。一人取り止めが出た。学生のレスポンスは良かった (都市システム主題別ゼミナール D)。
 - ・ 実際の橋梁について、現場に行ってみつけた劣化損傷をとりあげ、起こるメカニズムについて調査させた。実地調査は好評だった。全員が最後までやり遂げた (都市システム主題別ゼミナール E)。
- (主別 A~E について) 学科長より、必修にも拘らず落とされた学生 (来年度に水戸に取りに行かなければならない) について、担当教員に状況の問い合わせがなされ (一人は、発表やレポートなどの期限を与えられたときに弱い感じで休みがちになるとのこと)、本科目は本学科教員が隔年で担当していることから前回の経験を生かすようにとの指示があった。
- ・ 2 年目なので、内容は昨年と同じ。レポートを出さない学生が数人いるため、成績が全体的に下がった。全体的に理数系のレベルが低い。質問の時間を設けたが、利用する学生はいなかった (物理学)。
 - ・ (口頭のみ説明) 工学部の多数の学科からなる大勢のクラスで、最後のほうは計画的に休む者も出た (微分積分 II)。
 - ・ 何も言わずにトイレに行ったり、無駄話したり、学習態度が悪かった。トラスの問題で、授業では角度 45 度の問題を解き、試験では 3:4:5 の角度にしたところ、多くの学生が 45 度で解いた。全体的に理数系のレベルが低い (材料力学)。
 - ・ 前半は都市の歴史、後半は都市計画。他学科からの学生の取り止めが多かった。成績は低下傾向である。授業態度が悪かった。ねらいはほぼ達成できた。手法の話題になるとついてこなくなる (都市地域計画)。
 - ・ 態度の悪い学生に注意した。中ぐらいの成績が増えた。演習は 2 回行い、残りは解答を配布した。内容は例年と同じ (測量学)。

- ・ (FD 担当者による口頭のみ)の説明) 内容は例年と同じ. 不合格者一名 (線形代数 I).
- ・ 簡単な報告のみ (都市設備及び住居環境).
- ・ 内容は例年通りであった. 天候の悪い日が多く, 補講をせざるをえなかった (5 回分). レポートを出さない学生が多数おり, そのまま点数をつけると多数の学生が落ちるので点数を付けにくかった (測量学実習).
- ・ 見学先としてコストパフォーマンスの高いものを選定した. 見学や授業 (外部講師のお話) には来るがレポートを出さない学生が多数出た. 履修申告をぎりぎりまで延ばして, 聞けるだけ聞いて様子を見ようとする姿勢が目立った. 来年度は, レポート提出を前提に出席するように指導する必要がある (都市システム工学特別講義).

→ 昨年度の本科目ご担当で本年度前期都市システム工学トピックスご担当の先生からのご意見: 昨年度もそのような学生はいた (その方が有利と思っている). トピックスはもっとひどく, 4 回中 2 回しか出席しない学生がいる.

関連して, 土木行政 (4 年次前期) など履修できても取らない, 交通システム (3 年次後期) など試験が厳しいので取らない学生が増えている, などの問題点が指摘され, 今の学生の態度を許すような成績評価方法について全体討議が成された.

- ・ (態度が悪い学生は) 成績を 50 点にすると GPA に反映される.
 - ・ (卒研着手などに) GPA による評価が導入されたところが大きい. (学生側は) GPA を上げるための“傾向と対策”を考え, 難しい科目は取らなくなった. 色々な科目を沢山取らせ, レポート点を上げていって, それらが総合成績につながるような評価する方法も考えては.
 - ・ GPA で (総合成績を) 評価するなら, 取り止めも理由が無ければ不可にするなど, 相当きびしくする必要はある.
- など.

- ・ 非常勤の先生が今年から変わった. 履修者は減りつつある. レポートを毎回出すので学習時間は多い (輸送施設工学).
- ・ 単位を落とした学生の割合は昨年度の 2 倍であった. 問題の解き方を教えないと理解しない学生が多い. 態度は一所懸命にやっている (水理学 II).
- ・ 簡単な報告のみ. 履修者が減り, 取り止め者増えた (数学解析 I).
- ・ 課題のレスポンスは悪い. 単位を取るために最小限の努力ですむように, 3 力学の内, 1 回当たりのレポート点数から逆算して, 戦略的にレポートを出さない学生がいる (建設工学演習 II).
- ・ E 評価を減らすため, 成績評価法を変更した. 中間, 期末に加えて小テストを行った (コンクリート構造学).
- ・ 履修者が少ない. 3 年の後期なので単位が足りている学生が多い (研究室の配属も考えて, 選択科目を取るべき (構造工学 (代理: 車谷)).
- ・ 国公務員試験に出る問題を紹介している. 長くやっているもので例年と同様である. テストの点数を取ることには一所懸命であるが, 本質的理解とは別 (地下構造学).
- ・ 5 テーマの内, 耐震設計のテーマは学生のモチベーションが低い (他の 4 テーマは特に問題なし). 地盤のテーマは安原先生からの引継ぎ (都市システム設計演習 II). 1 テーマは震災のため授業記録未完成.
- ・ E 評価の学生はまったく勉強していない. 内容は例年通りであった (上下水道工学 (代理: 横木)).
- ・ 合格者の中に, 教育目標を達成していない学生がいた (社会システム分析).

- ・ 選択科目なので学生のモチベーションが低い。成績が悪い（E 評価の学生は最初からついてゆけない）。演習問題を解いたりして底入れはしている。過去問の傾向は変えず出題している（数理統計 II）。
- ・ 受講人数が減った。繰り返し説明しているが理解度が低い。レポートの比率を増やしたところ成績が上がった（交通システム）。

午前の部の全体討論：

- ・ 設計演習 II の授業記録ファイルを、主題別ゼミナールのようにテーマごとに分けたほうがよいのではないか。
- ・ JABEE の 学習目標の達成と単位取得を統一できないか。両者が等価であるような評価基準を作り、シラバスを作るようにしては。

[午後の部]

- ・ 例年通りであった。不合格 1 名。JABEE の教育目標に達しない学生がいた（景観工学）。
- ・ E の学生が多く出た。構造力学 I を分かっていないものが単位を落としている。来年度は新たな角度から授業計画を立て直す。教科書のどの部分をしっかり教えるかを考えていく（構造力学 II（代理：原田））。
- ・ 必修であるにもかかわらず履修申請をしない学生がいる。共通棟の耐震改修工事の影響により、製図室に充てた教室の評判が良くなかった。成績分布は多少向上しており、手元が暗い、寒い、プロジェクターが使えず、といった環境面の問題はそれほど影響していない。TA の協力がかなり重要なので、予算と人数を増やしたい（都市システム工学製図 II）。
- ・ 開講時期が前期から後期になったことと建築史に興味がないためか、受講人数が大幅に減った（教室を少人数用に変えた）。教養の一部と位置づけて、建築史と土木史の両方をやっている。教科書を要約や PPT 発表があるので負担は大きいがしっかりやっていた。少人数でしっかりやる講義体系についても考えていく必要がある（建築学概論）。
- ・ 例年通りしっかりやっている。受講者数をもっと増やしていきたい（河川・水環境工学）。
- ・ 昨年度から実習必要期間を「実質 2 週間程度」としたが、お仲人の先生方に必ずしも浸透していなかったため、本科目担当教員と受け入れ先との（実質 2 週間を確保するための）やりとりが大変であった。受け入れ先からの実習報告書が提出されなかったため、実習に行って報告会でも報告したのに、（単位取得条件を満たさないため）取消しにした受講生が 2 名出た（都市システム工学学外実習）。
- ・ 別途資料（研究室の総合点と学科教員による発表点、研究時間の纏め）を用いて全卒業生に関する報告が行われた。特に問題はなかった（卒業研究）。

4. 授業方法で優れている点と改善すべき点

4.1 授業方法で優れている点

- ・ 今回の学部 FD では、優れた授業方法という観点での議論はあまりなされなかった。観点は少し違うが、上記 4.3 に科目別に記したように、学生さんにモチベーションを持たせ、点数を取らすために内容や成績評価法を例年より工夫している科目は多い。

4.2 授業方法で改善すべき点

- ・ 受講者が減りつつある，E 評価が多い，などの科目については，個別に上記3に改善すべき点を記した（但し，当日授業記録などを準備して出席された方の意見に偏っているが）。

5. 問題点と議論

会議中に抽出された問題点についての議論も，上記3に記した。今後本学科の教務・学務WGなどを中心に，これらの問題点をより詳細に検討していくこととなった。

以上

